

---

ONE PIECE ~ 転生 ~

イケイケ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ONE PIECE ～転生～

### 【コード】

N4813M

### 【作者名】

イケイケ

### 【あらすじ】

ワンピースに転生した男が原作介入する物語。 駄文でよかったですら見て下さい。

## プロローグ

目が覚めたらいきなり老人に土下座された

「スマン！」

「何でいきなり謝ってんの？てかあんた誰？」

「ワシは神で間違って殺してしまった」

「ふん、で転生させてくれんの？」

我ながら順応早いな

「う、うむいいぞ。こちらに責任があるからな」

「漫画の世界でもいいのか？」

「はいぞ」

どれにしようかな〜・・・よし決めた

「ワンピースの世界に転生させてくれ」

「よし、わかった。それと何か願いを聞いてやるう」

「じゃあ、まずシャンクスの子供にしてくれ。それで原作が始まる18年前に転生させて

くれ。あと、容姿はナオトのサスケにしてくれ。」

「うむ、わかった。」

「二つ目は、サスケの万華鏡写輪眼がつかえるみ実をくれ。あと、霸王色の覇気を

使えるようにしてくれ。」

「なぜ、力ではなく実にするのだ？その方が楽だと思っが？」

「力にしたらあんまり楽しくないじゃん。やっぱり対等の方が楽しいんだよ。」

「そうか。わかった、写輪眼は失明したら永遠の万華鏡写輪眼になるように

しておくぞ。」

「わかった、これで全部だ。」

「よし、わかった。あと、格闘センスと才能をやるう。ではいつて  
来い。」

そう言われた直後いきなり眠気に襲われ寝てしまった

## 第1話

目が覚めると誰かが騒いでる声が聞こえてきた

ここはどこだろう？そうすると、海の臭いがしてきた

ここは船の上なのだろうか？

生まれたてでほとんど周りが見えないので周りの声を聞くことに

しよつと思った

そう思ったとたんいきよいく扉が開いた音がした

「お！生まれたか、レノア！」

「はい、男の子ですよ。顔があなたそっくり。」

どうやら無事生まれましたみたいだな

レノアっていうのは俺の母さんかな？

「そうか、よかった。おれにも抱かしてくれ。」

「いいわよ。ほら。」

「お！これがおれのガキか。無事に生まれてよかった。」

かすかに赤い髪とかが見えた。これがあのシャンクスか

「名前は何にするんですか？」

「名前か何にしようかな？そうだ、レンだ！それでいいか？」

「あなたが決めたのならそれでいいわ。」

俺の名前はレンか、いい名前だな

「頭、そんなに大事だったら島で生まれりゃよかったのに。」

「そりゃそうだ！がっはっはっは！！」

と笑い声が聞こえてきた。

「う、うるせえな！立派な強い男に育てて欲しくて船の上でやったんだ！」

「なんだよその言い分」

どうやら、やっぱり船の上みたいだ。

「今から宴会するぞ！楽しい時に飲まなきゃ損だろうが！いいから早く

持ってこい！」

「何かごまかしてないですか？」

「いいから飲め飲め！」

「へいへい。」

そんなにぎやかな声を聞いてるうちに眠たくなり寝てしまった。

やっぱり赤ちゃんは寝るのが仕事なんだな〜と思いながら。



< シャンクス side >

待ち遠しかった赤ん坊の泣き声が聞こえた。

部下に手招きされいきよよく扉を開けた。

そうすると、レノアが笑っていて赤ん坊を抱えていた。

「お！生まれたか、レノア！」

ようやく俺のガキが生まれたか！

「はい、男の子ですよ。あなたと一緒に赤い髪ですよ。」

男か、だったらバシバシ鍛えて強くするぞ！！

「そうか、よかった。おれにも抱かしてくれ。」

抱いてみるとなんとなく強くなる気がした。

そして、名前を聞かれ、なにかいい名前ないかな〜と赤ん坊を見るとふと

レンという名前が浮かんだのでそれにした。

その名前をレノアにいうといいと笑いながら答えてくれた。

そうしていると、下から

「あつああああ〜」

と声が聞こえたので下をむくと赤ん坊が笑っていた。

どうやら気に入ってくれたようだ。

内心少しうれしかった。

と、そんなことを考えてると

「頭、そんなに大事だったら島で生まれりゃよかったのに。」

と言ってきた。

俺も本当はそうしたかったが俺たちは海賊だ

海軍と偶然会い攻撃してきたらたまったもんじゃない

まあ、下っ端だったらどうにでもできるが大将や中将が来たら面倒だからな。

それに、レノアや生まれてくる子供にもしものことがあったらいけな

かったからな。

だが、そんなこといつらに知られたら何言われるか、考えただけでも

いやだからな

だから、

「う、うるせえな！立派な強い男に育って欲しくて船の上でやったんだ！」

と言っておいた。

そのとき、レノアが笑ってたけどやっぱばれてるかな。いや、考えないでおこう。

そんなことを考えていると、また言ってきたので

「今から宴会するぞ！楽しい時に飲まなきゃ損だろうが！いいから早く

持ってい！」

と言った、だがまた何か言ってきたので

「いいから飲め飲め！」

と言いその後はもう無視してそのまま飲み続けた。

そして、赤ん坊を見るとうれしそうに寝ていた。

本当に父親になったんだなと思った。

<レン side>

それから数週間経ち、ようやく目が見えてきてシャンクスを初めて見たときは

感動した。だって生のシャンクスだぜ、しかも漫画よりも遙かに若いからな。

そして、本当に転生したんだなと実感した瞬間だった。

それと、母さんも見た。すごくきれいだった。

この人が母親だと知った時は何かうれしかった。

やっぱり、その人の子供だからかな

それから数ヶ月経った。

今俺はすごく悩んでいる。

それは何かというとこれからのことだ。

どうやって原作に介入するかだ。

うーん、どうしようかな

だけど、考えてもいい案が浮かばない。

ま、これは今度にしよう。

時間はいっぱいあるからな

えっ！　なんでかって！？　そりゃあ、赤ん坊だぜ。

やること何にもないんだからさ

あるとすれば寝るだけだからな

それじゃ、寝るとしようかな

## 第1話（後書き）

いじ意見トキ。

第2話（前書き）

遅れてすみません

頑張って書いてみます

## 第2話

今俺は墓の前に父さんと一緒にいる。

なんで墓の前にいるかというと母さんが流行り病で死んでしまった

からだ。そして、今母さんの最後の言葉を思い出していた。

〈回想〉

「母さん死ぬなよ！　ずっと居てくれよ！」

「もう無理みたいだね。」

「そんなこと言つなよ！」

今更になって思う。転生した俺がこんなにも母さんのことを心配

するとは思わなかった。

初めはこの世界を楽しむことしか考えていなかった。

そして、この世界での両親を物語の人物としか思っていなかった

が、いつの間にか本当の両親と違ってたんだな。



「これは変えられないの。私はもうすぐ死ぬわ。」

「生きてくれよ。」

「そんな悲しい顔をしないで。私がいなくなってもシャンクスがいるんだから。」

「そうだけど・・・」

「シャンクスお願いね」

「ああ。」

「それとレン、誰にも負けない強くなつてね。シャンク強くしてあげてね。」

「わかった。」

「おう、任しとけ。」

その言葉を聞くと母さんは笑いながら逝ってしまった。

〜回想終了〜

という事を思い出していた。

そうしてボーっとしてると隣にいる父さんが喋りかけてきた

「レン」

「何？」

「明日からお前の修行を始めるからな」

「・・・・・・・・」

それを聞いたとたん思考が停止してしまった

「おゝい、どうした？」

「はあああああああああ！？」

いきなり何言いだすんや！！

3才だぞ！ ボケたかこの野郎！！

「うわあ！？ いきなり大声出すなよびつくりしたじゃねえか」

「それはこっちのセリフだ！」

「何がだよ」

「なんで修行するんだよ！」

「レノアがおまえに言ってたじゃねえか、強くなれってさ」

「それはそうだけど、何で明日からなんだよ！」

「だって、早い方がいいと思って」

「年齢を考えろよ、年齢を！」

「いいんじゃないか」

「3才だぞ、ありえないだろ！」

「普通だったらすうだけど、レンは成長するの早いし何より……」

「何より？」

「俺の子供だからな」

「最悪だ」

このときレンはもっとゆっくり成長すればよかった  
と思った

そして、翌日から地獄の日々が始まった

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4813m/>

---

ONE PIECE ~ 転生 ~

2011年10月7日14時27分発行